

(1) 事業名称等

【事業名称】 近現代建造物緊急重点調査事業（土木）

【実施団体】 公益社団法人 土木学会

【事業経費】 1,483,160 円

(2) 事業の目的

我が国の近現代の優れた建築物や土木構造物（近現代建造物）は、その優れた意匠や高い技術などにより国際的に高い評価を受けているが、文化財としての保存の措置がほとんど講じられていない。これらの適切な保護を図るため、緊急かつ重点的に調査を実施する。

土木調査では、主として 20 世紀に造られた土木構造物について、各分野の括りで、優れた土木構造物の所在地、建設年、規模、構造、図面、現況などに関する情報を集約する。平成 28 年度からは、三分野（道路分野、河川分野、鉄道分野）について 1 次調査及びモデル調査を実施した。

(3) 業務の実施日程

1) 業務の実施日程

	平成 28 年			平成 29 年		
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1) 調査対象分野の小史の整理			■	■		
2) 分野別評価基準案の作成			■	■	■	■
3) 1 次調査リストの作成			■	■	■	■
4) モデル調査の実施				■	■	■
5) 委員会の組織・運営			①	②		③
6) 報告書のとりまとめ						■

2) 委員会の開催日程

開催回	開催日時	開催場所
第 1 回	平成 28 年 12 月 16 日（金） 15：00～17：00	早稲田大学西早稲田キャンパス 51 号館 16 階 社会環境工学科 小会議室
第 2 回	平成 29 年 1 月 27 日（金） 18：00～20：00	土木学会 D 会議室
第 3 回	平成 29 年 3 月 23 日（水） 10：00～12：00	土木学会 F 会議室

3) モデル調査実施日程

・調査日程：平成 29 年 3 月 1 日（土）～20 日（日）

・調査員：

委員会 職区分	氏名	所属
委員長	佐々木 葉	早稲田大学創造理工学部 社会環境工学科
幹事長	阿部 貴弘	日本大学理工学部 まちづくり工学科
委員	小野田 滋	公益財団法人鉄道総合技術研究所
委員	北河 大次郎	独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所
委員	木村 優介	京都大学大学院工学研究科 社会基盤工学専攻
委員	土田 宏成	神田外語大学外国語学部 国際コミュニケーション学科
委員	橋本 政子	公益財団法人高速道路調査会 研究部
オブザーバー	大村 拓也	

(4) 業務実績の説明

1) 調査対象分野の小史の整理

本調査においては、他分野への調査方法の展開を念頭に、効率的・効果的な調査実施の観点から、委員会の議論を踏まえて、道路分野においては橋梁、鉄道分野においては鉄道施設全般、河川分野においてはダムを調査対象として選定した。

これらの各調査対象について、戦後土木施設の社会背景を整理したうえで、調査対象分野のうち、小史作成の対象とする構造物種別を選定し、それらの構造物種別について、エポックメイキングとなった事業や、工法や材料の転換点、さらに技術基準の改定時期等に着目し、小史を取りまとめた。

2) 分野別評価基準案の作成

評価基準案の作成にあたっては、その枠組みを“評価の視点（切口）”にあたる「評価軸」と、評価軸ごとの“評価の尺度”にあたる「評価基準」に整理することを想定して分析した。その際、施設単体の技術・意匠・系譜の観点をはじめ、技術基準改正時の考え方、各技術賞の評価の観点とともに、施設の都市的な位置づけと地域・国内外への波及効果、背景をなす計画論や一連の施設群としての位置付け等を加味した多面的な分析に基づき、評価基準案を分析・抽出した。特に、個別施設的设计・施工に関わる要素技術の評価だけではなく、国土計画や地域計画を含めたプランニング技術の評価も念頭に評価基準案を作成した。

3) 1次調査リストの作成

戦後土木施設は大量の施設が現存していることから、それらの現存施設すべてを対象として、悉皆的にリスト化を進めることは効率的であるとは言い難い。一方、戦後土木施設は、分野ごとに専門性が高度化した結果、すでに各分野における一定の価値づけに基づく施設がリストアップされている。

そこで、これら既存リストを活用して1次調査リストを作成した。

4) モデル調査の実施

1次調査リストに記載された施設を中心に、戦後土木施設の歴史・文化的価値を評価するためのモデル調査を実施した。

建築物とは異なり、特に戦後土木施設は、個別の施設単体で計画・設計されるのではなく、沿線あるいは流域といった範囲において、相互に機能分担や連携を図りながら、一連の施設群として計画・設計される特徴を持つ。そこで、モデル調査にあたっては、沿線あるいは流域といった単位で調査範囲を設定し、その範囲内に立地する調査対象分野に関わる複数の施設群（岐阜県および滋賀県、京都府下の名神高速道路の沿道を中心とした地域）を一体的に調査した。調査対象とした施設の一覧を下記に示す。

通番	分野別番号	名称	摘要・場所	時期
01	道路①	名神高速道路／象鼻山	ラウンディング・張芝工	
02	道路②	名神高速道路／今須の線形改良区間	今須の急カーブ	1958
03	道路③	名神高速道路／多賀 SA	最初期 栗東～関ヶ原の開通により設置	1964
04	道路④	旧 JH 直営・開設の苗圃	現 NEXCO 総研 緑化技術センター	1958
05	鉄道①	東海道新幹線／野洲川橋梁	連続鋼トラス	1964
06	河川①	野洲川放水路	洪水全量を放水路に放流する新河道掘削	1979
07	道路⑤	琵琶湖大橋	湖の西と東を結ぶ初めての橋	1964
08	鉄道②	東海道本線／草津川 TN	天井川の開削トンネル	1956 1969
09	鉄道③	東海道本線／瀬田川橋梁	PC 連続桁、ディビダーク工法	1967
10	鉄道④	東海道新幹線／瀬田川橋梁	連続鋼ボックス桁	1964
11	道路⑥	名神高速道路／蟬丸橋	国道 1 号（旧東海道）と交差	
12	道路⑦	名神高速道路／大津 SA （上り線）	名神最初の開通区間の SA	1963

通番	分野別番号	名称	摘要・場所	時期
13	河川②	野洲川ダム	農業水利ダム、国策による事業	1951
14	道路⑧	新名神高速道路／穴太積み	中央分離帯石積工、東海道自然歩道沿い	2006
15	鉄道⑤	信楽高原鉄道／第一大戸川橋梁	本格的 PC 鉄道橋第 1 号	1954
16	河川③	天ヶ瀬ダム	淀川水系初の多目的ダム、ドーム型	1964

5) 委員会の組織・運営

本調査においては、成果の質を高めるため、下表のとおり専門家らからなる委員会を設置し、委員会の議論を踏まえ調査を実施した。

氏名	所属等	備考(委員会職区分)
佐々木 葉	早稲田大学院創造理工学研究科建設工学専攻 教授	委員長
阿部 貴弘	日本大学理工学部まちづくり工学科 准教授	幹事長
大沢 昌玄	日本大学理工学部土木工学科 教授	委員
岡田 一天	株式会社プランニングネットワーク	委員
小野田 滋	公益財団法人鉄道総合技術研究所	委員
北河 大次郎	独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所	委員
木村 優介	京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻 助教	委員
紅林 章央	東京都建設局	委員
佐野 良久	株式会社高速道路総合技術研究所	委員
土田 宏成	神田外語大学外国語学部国際コミュニケーション学科 教授	委員
土井 祥子	東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 博士課程	委員
中村 晋一郎	名古屋大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻 講師	委員
中村 一史	首都大学東京都市環境科学研究科都市基盤環境学域 准教授	委員
橋本 政子	公益財団法人 高速道路調査会	委員